

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 17 年 12 月 22 日 (2005.12.22)

【公表番号】特表 2004-531226 (P2004-531226A)

【公表日】平成 16 年 10 月 14 日 (2004.10.14)

【年通号数】公開・登録公報 2004-040

【出願番号】特願 2002-559589 (P2002-559589)

【国際特許分類第 7 版】

C 1 2 N 15/09

A 6 1 K 31/7088

A 6 1 K 38/00

A 6 1 K 39/395

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 48/00

A 6 1 P 3/04

A 6 1 P 7/00

A 6 1 P 9/10

A 6 1 P 11/00

A 6 1 P 11/06

A 6 1 P 13/00

A 6 1 P 25/00

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 43/00

C 0 7 K 14/705

C 0 7 K 19/00

C 1 2 N 1/15

C 1 2 N 1/19

C 1 2 N 1/21

C 1 2 N 5/10

C 1 2 P 21/02

C 1 2 Q 1/02

C 1 2 Q 1/68

G 0 1 N 33/15

G 0 1 N 33/50

G 0 1 N 33/53

G 0 1 N 33/543

G 0 1 N 33/566

【 F I 】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

A 6 1 K 31/7088

A 6 1 K 39/395 D

A 6 1 K 39/395 N

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 48/00

A 6 1 P 3/04

A 6 1 P 7/00

A 6 1 P 9/10

A 6 1 P 11/00

A 6 1 P 11/06

A 6 1 P	13/00	
A 6 1 P	25/00	1 0 1
A 6 1 P	35/00	
A 6 1 P	43/00	1 1 4
C 0 7 K	14/705	
C 0 7 K	19/00	
C 1 2 N	1/15	
C 1 2 N	1/19	
C 1 2 N	1/21	
C 1 2 P	21/02	C
C 1 2 Q	1/02	
C 1 2 Q	1/68	A
G 0 1 N	33/15	Z
G 0 1 N	33/50	Z
G 0 1 N	33/53	D
G 0 1 N	33/53	M
G 0 1 N	33/543	5 0 1 A
G 0 1 N	33/566	
C 1 2 N	5/00	A
A 6 1 K	37/02	

【手続補正書】

【提出日】平成17年1月20日(2005.1.20)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

以下からなる群から選択される単離されたポリヌクレオチド：a)i . 配列番号2に示すアミノ酸配列と少なくとも約50%同一なアミノ酸配列；およびi i . 配列番号2に示すアミノ酸配列からなる群から選択される、セロトニン様Gタンパク質共役型レセプターをコードするポリヌクレオチド；b) 配列番号1で示される配列を含むポリヌクレオチド；c) (a) および (b) に記載のポリヌクレオチドとストリンジェントな条件下でハイブリダイズするポリヌクレオチド；d) 遺伝コードの縮重のためその配列が (a) から (c) に記載のポリヌクレオチド配列と相違する、セロトニン様Gタンパク質共役型レセプターポリペプチドをコードするポリヌクレオチド；および、e) (a) から (d) に記載のポリヌクレオチド配列の断片、誘導体またはアレル変異を表し、セロトニン様Gタンパク質共役型レセプターポリペプチドをコードするポリヌクレオチド。

【請求項2】

請求項1に記載のポリヌクレオチドを含む発現ベクター。

【請求項3】

請求項2に記載の発現ベクターを含む宿主細胞。

【請求項4】

請求項 1 に記載のポリヌクレオチドによりコードされる、実質的に精製されたセロトニン様 G タンパク質共役型レセプターポリペプチド。

【請求項 5】

以下の工程を含む、セロトニン様 G タンパク質共役型レセプターポリペプチドの製造方法：

a) 請求項 3 に記載の宿主細胞を、セロトニン様 G タンパク質共役型レセプターポリペプチドの発現に好適な条件下で培養する工程；および

b) セロトニン様 G タンパク質共役型レセプターポリペプチドを宿主細胞培養から回収する工程。

【請求項 6】

以下の工程を含む、生体試料中の、セロトニン様 G タンパク質共役型レセプターポリペプチドをコードするポリヌクレオチドを検出する方法：

a) 請求項 1 に記載のポリヌクレオチドを生体試料の核酸材料とハイブリダイズさせ、それによりハイブリダイゼーション複合体を形成させる工程；および

b) 該ハイブリダイゼーション複合体を検出する工程。

【請求項 7】

ハイブリダイゼーションの前に生体試料の核酸材料を増幅させる、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 8】

以下の工程を含む、請求項 1 に記載のポリヌクレオチドまたは請求項 4 に記載のセロトニン様 G タンパク質共役型レセプターポリペプチドを検出する方法：

a) 生体試料を、該ポリヌクレオチドまたは該セロトニン様 G タンパク質共役型レセプターポリペプチドと特異的に相互作用する試薬と接触させる工程、および

b) 該相互作用を検出する工程。

【請求項 9】

請求項 6 から 8 のいずれかに記載の方法を実施するための診断キット。

【請求項 10】

以下の工程を含む、セロトニン様 G タンパク質共役型レセプターの活性を低下させる物質をスクリーニングする方法：

a) 被験化合物を、請求項 1 に記載のポリヌクレオチドによりコードされるセロトニン様 G タンパク質共役型レセプターポリペプチドと接触させる工程；

b) セロトニン様 G タンパク質共役型レセプターポリペプチドに対する被験化合物の結合を検出する工程であって、該ポリペプチドに結合する被験化合物を、セロトニン様 G タンパク質共役型レセプターポリペプチドの活性を低下させる可能性ある治療物質として同定する工程。

【請求項 11】

以下の工程を含む、セロトニン様 G タンパク質共役型レセプターの活性を調節する物質をスクリーニングする方法：

a) 被験化合物を、請求項 1 に記載のポリヌクレオチドによりコードされるセロトニン様 G タンパク質共役型レセプターポリペプチドと接触させる工程；および

b) 該ポリペプチドのセロトニン様 G タンパク質共役型レセプター活性を検出する工程であって、セロトニン様 G タンパク質共役型レセプター活性を増大させる被験化合物を、セロトニン様 G タンパク質共役型レセプターの活性を増大させる可能性ある治療物質として同定し、該ポリペプチドのセロトニン様 G タンパク質共役型レセプター活性を低下させる被験化合物を、セロトニン様 G タンパク質共役型レセプターポリペプチドの活性を低下させる可能性ある治療物質として同定する工程。

【請求項 12】

以下の工程を含む、セロトニン様 G タンパク質共役型レセプターの活性を低下させる物質をスクリーニングする方法：

a) 被験化合物を、請求項 1 に記載のポリヌクレオチドと接触させる工程；および

b) 該ポリヌクレオチドに対する被験化合物の結合を検出する工程であって、該ポリヌクレオチドに結合する被験化合物を、セロトニン様 G タンパク質共役型レセプターポリペプチドの活性を低下させる可能性ある治療物質として同定する工程。

【請求項 13】

細胞を、請求項 1 に記載のポリヌクレオチドまたは請求項 4 に記載のセロトニン様 G タンパク質共役型レセプターポリペプチドに特異的に結合する試薬と接触させ、それによりセロトニン様 G タンパク質共役型レセプターポリペプチドの活性を減少させる工程を含む、セロトニン様 G タンパク質共役型レセプターの活性を減少させる方法。

【請求項 14】

請求項 10 から 12 のいずれかに記載の方法によって同定される、セロトニン様 G タンパク質共役型レセプターポリペプチドまたはポリヌクレオチドの活性を調節する試薬。

【請求項 15】

請求項 2 に記載の発現ベクターまたは請求項 14 に記載の試薬と、製薬的に許容し得る担体を含む、医薬組成物。

【請求項 16】

疾患におけるセロトニン様 G タンパク質共役型レセプターの活性の調節のための医薬の製造における、請求項 2 に記載の発現ベクターまたは請求項 14 に記載の試薬の使用。

【請求項 17】

疾患が C O P D、心疾患、癌、泌尿器系の疾患、肥満症、糖尿病、C N S 障害、喘息または血液疾患である、請求項 16 に記載の使用。